

韓国環境部プレスリリース 2019年11月7日付

以下、機械翻訳などによる仮訳

## 鉄原遠南面及び坡州津東面で発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルス検出（21・22例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1083200&menuId=286>

### 【本文】

環境部所属の国立環境科学院（院長チャン・ユンソク）は江原道鉄原郡遠南面竹垞里167番地と京畿道坡州市津東面下浦里240番地で発見されたイノシシへい死体2体からアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと11月7日明らかにした。

遠南面のへい死体は11月6日午前8時30分頃、軍部隊が捜索中に発見しており、下浦里のへい死体は同日午前9時頃、農業者が発見した。申告を受けた鉄原郡と坡州市は試料採取後、野生イノシシアフリカ豚コレラ標準行動指針により死体を埋却処理した。

※試料採取及びへい死体埋却後の作業者の消毒、周辺防疫作業の実施

科学院は11月7日未明2時頃、アフリカ豚コレラウイルスを最終確認し、その結果を関係機関に通報した。これで、鉄原は8件、坡州は6件のへい死体でアフリカ豚コレラウイルスが検出されており全国的には22件に増えた。

チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「二地点は民統線内であり、鉄原は、15番目に検出された地点とは20m離れた地点で、既存の1次及び2次フェンスの中であり、坡州は従来の2次フェンスの中に含まれた地点だ」として、「軍部隊と協力して、この地域でへい死体捜索をさらに強化する」と話した。

（以上）